

## 第 32 回 かたの・環境を考える委員会

### 概要

- ・日時：2012年1月26日（木）13:00～17:30
- ・訪問場所：生駒市役所
- ・テーマ：推進組織や事務局体制、プロジェクトの先行事例ヒアリング

### 進行・内容

13:15 交野市役所を出発。

バス内で生駒市と推進組織への質問事項の確認や、作業班ごとに聞くべきポイントなどのオリエンテーションをおこなった。

14:00 生駒市のコミュニティセンターで、生駒市環境基本計画推進組織「ECO-net 生駒」の委員、生駒市役所職員から ECO-net 生駒設立までの経緯と、各部会からプロジェクトの説明を受け、その後、意見交換をおこなった。



### 生駒市環境基本計画推進組織「ECO-net 生駒」について

- ・ ECO-net 生駒という愛称は公募で決定した。
- ・ 平成 19 年に 31 人の委員が集まり環境基本計画策定委員会がスタートし、2 年をかけて計画が出来上がった。その後、推進組織ができるまでには半年間かかった。
- ・ 各プロジェクトの取り組みは、各部会を通じて推進されてきた。18 あるプロジェクトに一斉に取り組むことはできないため、重点的なものから進めていった。
- ・ 行政と市民の協働で進めていったが、初めは協働に対する考えが違った。次第に両者の理解が進み、分担をして役割を担えるようになった。環境には垣根がないので、互いに情報を共有しながら進めていくことが大事である。
- ・ 基本計画のビジョンは、市民委員が生駒のよいところ、悪いところを出し合い、10 年後の生駒の未来を描いて決めたものである。

### 生駒市環境基本計画策定委員会での審議（計画策定期間中の推進組織設立に向けた審議）について

- ・ 平成 21 年 3 月、環境基本計画策定委員会において、推進組織の審議をおこなった。

審議テーマ：設立準備会の設置準備、組織のあり方（組織形態の検討や委員による事例調査・発表）、事務所の検討、先導事例の学習、推進組織設立までのプロジェクトの先行実施について

### 推進組織設立準備会の設立から ECO-net 生駒の設立まで

- ・ 策定委員会は平成 21 年 3 月の第 49 回で終了したが、委員は



4月中も継続して推進組織の設立に向けて検討し、平成21年5月27日に推進組織設立準備会を設立した。

- ・ 策定委員会では代表者等の役員は決めていなかったが、準備会では各部会から3名ずつを選出した。策定委員会時からの委員などの約40人が会員となった。
- ・ 推進組織への参加呼びかけをする案内団体リストの作成を市がおこなった。
- ・ 6月後半から推進組織設立に向けて、名称、会員の要件、会員区分、会費、役員などについて検討する段階に入った。
- ・ 7月から市民、事業者への呼びかけを開始し、準備会の会員と市職員でチームを組み、リストアップした39団体を訪問した。(環境市民による記録の補足：まず、呼びかけ団体になってくれる団体等を募集し、賛同した団体名を盛り込んだ設立総会案内を作成、設立大会に向け、参加者・参加団体を募った。)
- ・ 10月31日に推進会議設立大会を実施し、準備会の会員や各団体に対して入会申込書を送付し、推進組織参加の意思確認をした。(会員38人、団体は10団体)

#### プロジェクトの先行実施について

- ・ 設立準備会での研修は、コミュニケーションスキル、環境基本計画の説明、各分野の推進状況について実施した。
- ・ 市主催の環境フェスティバルでECOMAカーニバルを開催(平成21年6月7日)
- ・ 推進組織への参加呼びかけ団体を対象に、生駒市環境市民養成プレ講座を実施(平成21年8月22日、9月5日)。各部会の活動報告や意見交換をおこない、約20団体が参加した。
- ・ 分野別プロジェクトは準備段階であり、できるプロジェクトから始めていった。

14:30 プロジェクトについて、分野ごとに説明をおこなった。

#### 自然環境分野のプロジェクト

- ・ 取り戻そう子どもが願う竜田川!
- ・ 遊休農地を優良農地にしよう!
- ・ 生駒の自然を観察しよう!そして保護していこう!

#### せいかつ環境分野のプロジェクト

- ・ 環境にやさしい売り方・買い方を推進する生駒
- ・ 減らそう!家庭のCO<sub>2</sub>を
- ・ いこま菜の花いっぱい運動

#### まち・みち環境分野

- ・ みんなで歩こう!環境まち・みちづくりプロジェクト
- ・ みんなでつくる緑潤うまち
- ・ 家の“300m圏内”から、バスや電車に乗れるまちをつくる
- ・ 自転車愛用者増大計画!!



- ・バスも電車もどこまでも自転車でプロジェクト
- ・みんなでエコドライブ！きれいにかしこく安全に

#### エネルギー環境分野

- ・エネルギー情報基地「ECOMA ベース」の設立
- ・雨水利用広め隊
- ・太陽光発電応援団
- ・CO2CO2（コツコツ）減らし、創エネでエコマネーをゲット！

#### 共通プロジェクト

4 分野 16 プロジェクトとは別に、全員が共通して実施するプロジェクト

- ・生駒環境市民養成講座
- ・ECOMA（エコマ）カーニバル

その他活動（ソーラーランタンづくり、環境フェスタ in 交野への視察、総会、環境自治体会議への参加、リサイクルトイレットペーパー「いこま紙」、会員ニュース「ECO-net 生駒ニュース」の発行、ホームページの運営）

15：05 全体で質疑応答と意見交換をおこなった。



Q1．推進組織立ち上げのために、市民委員、行政はどんなことをしたのか？

A1．推進組織を立ち上げる際、人、モノ、金について検討した。市民と行政は協働でおこなうことを原則とした。各部会から推進組織を動かしていくための運営委員を 15 人選出し、運営委員会で推進組織をどのようなものにしていくか話し合った。必要な項目や予算面について行政と意見交換をした。  
（ECO-net 生駒委員）

行政には組織の文章化、予算の働きかけなどをしてもらった。情報の集め方、効率的に情報を集めるための組織のあり方なども検討した。（ECO-net 生駒委員）

Q2．4 月から推進組織の立ち上げまでは、どんな体制で準備を進めたのか？推進組織立ち上げまでの具体的な流れを教えてください。

A2．推進組織の立ち上げまでは、運営委員会のメンバーを決めて、環境基本計画の実施を継続的におこなうための枠組みをつくっていった。推進組織の枠組みづくりに 2~3 カ月かけ、運営委員会を中心として、他市での事例調査をして、生協や PTA の組織形態なども検討し、案を出しながら意見交換をおこなった。どこでどんな組織が活動しているのか情報収集をおこなった。人にどのように参加してもらうか、予算措置のこと、情報をどのように集めるかなどを議論して、推進組織の立ち上げまでには半年近く時間がかかったが、全員で議論をして納得しながら、全員一致でおこなってきた。  
（ECO-net 生駒委員）

Q3．40 団体への働きかけはどのように行ったのか？

A3．40 団体には行政と推進委員とが 3 名ほどでチームを組んで 7 月頃に推進組織への加入依頼をおこなった。訪問先への資料作りは行政がおこなった。（ECO-net 生駒委員）

Q4．推進組織の構成、仕組みについて教えてください。

A4．ECO-net 生駒は、事業者、市民、生駒市も会員として入っており、組織そのものが三者協働であり、

みんなに責任と行動が求められている。生駒市が構成団体として加入するのか、または事務局だけ担うのかについては検討したが、行政は住民の福祉向上のために活動しているのであり、生駒市として住民のための計画を進めるのだから、一緒に進めていくために加入した。(生駒市)



Q5. 事業次第では資金がかかると思うが、市議会との関連や調整はどうだったのか？

A5. ECO-net 生駒へは、組織発足時に 80 万円、平成 22 年度は 400 万円の市の補助金を出している。最初は、独立した事務所を借りる計画で予算化していたが、賃借料、光熱費、通信費、備品、人件費などを考えた結果、市役所の環境政策課の隣に事務所を置くことになった。議会では特に質問は出ず、聞かれた場合には説明をおこなった。

Q6. 共通プロジェクトと 4 分野のプロジェクトとの関係は？

A6. 各分野に共通する教育の側面は、全体的な取り組みとして、全体プロジェクトに入れた。4 分野のプロジェクトから、これは全体でやりたいという提案があれば、全体の共通プロジェクトとして取り上げ、運営委員会で検討する。共通プロジェクトは、各部会から選出された代表がおこなう。運営委員会とは別に共通プロジェクトの実行委員会体制でおこなっている。

Q7. 市役所の事務局に市民が入って事務をすることは画期的だと思う。市役所が休みの土日に会議をする場合はどうするのか？ 事務局での 1 日の過ごし方やホームページ作成の担当について教えてほしい。

A7. 環境政策課のスペースを広げた場所を事務局としているが、個人情報の問題があるので、環境政策課と ECO-net 生駒の事務局はパーティションでしきっている。土日に実施する講座や講演会は他の部屋やコミュニティセンターで開催しているので問題はない。事務所内に立ち入る場合には、警備に身分証を提示している。日常の作業としては、部会の打合せやイベントの準備をしている。以前は、事務局メンバーを半日ずつ交代の順番性で回していたが、現在は割り当ててはいない。事務局の隣が環境政策課なのでコミュニケーションがとりやすい。ホームページの作成は、環境政策課の職員に手伝ってもらっているが、いずれは市民でしようと思っている。(ECO-net 生駒委員、生駒市)

Q8. 個人会員と賛助会員の活動への参加状況について教えてほしい。また、事務局の会計等の実務については、ECO-net 生駒のメンバーと環境政策課ではどのくらいの比重か教えてほしい。

A8. 正会員と賛助会員の会費は同額だ。賛助会員の参加率は低いが、正会員も仕事の関係などで参加できない人もいる。会計の事務処理は行政がおこなっている。ホームページやニュースレターの内容は各部会に広報担当者を置いて、内容は市民が作り、仕上げの部分は行政がおこなっている。(ECO-net 生駒委員、生駒市)

Q9. 冊子や概要版は何部つくってどんなところに配ったのか？ 市民の参加を呼び込むのによかったフレーズや企画はあるか？ 推進メンバー集めが大事なところだと思うので、その工夫を教えてほしい。

A9. 生駒広報に冊子の内容を一部掲載した。概要版は 6 万部刷って、市内の全戸と公共施設に配布して周知した。シンポジウムやイベントの際も PR や配布をした。昨年 7 回実施した、生駒市環境市民養

成講座の受講者を募集する際は、市民 1000 人を無作為抽出してダイレクトメールを郵送した。その中から参加の意思を示された 30 数人と新規採用の行政職員 10 数人合わせて約 45 人の参加者で講座をおこなった。何のために環境基本計画をつくっているのか、講座を通して説明をおこなってきた。毎年続けていくことで、市民の理解を得たいと思う。その中から、プロジェクトに興味を持った方が参加してくれるようになればいいと思う。(ECO-net 生駒委員)



Q10. シンポジウム等へ参加できなかった人へのフォローはあるのか？

A10. ECO-net 生駒の事務局スペースに情報コーナーを設けている。関係資料は持って帰れるようにしているし、ホームページやニュースにも内容を掲載する。当日のパネル展示は、市役所のロビーに展示しており、今年はスーパーへの展示も計画している。(生駒市)

Q11. シンポジウムは共催実施なのか？ シンポジウムの講師料は誰が払うのか？

A11. 主催と共催についてはいろんな考え方があるが、協賛や後援とは違う。ECO-net 生駒を PR する機会でもあるので、市と ECO-net 生駒は共催方式をとっている。二者と一緒に協働でおこなうイメージだ。以前は行政がシンポジウムもフェスティバルも単独で実施してきたところに、ECO-net 生駒が入る形になった。講師料は市が払っている。(生駒市)

Q12. 生駒市環境基本計画推進会議規約書があるが、市も会員として入っているのか？

A12. 第 4 条の「目的に賛同して会員となる市民、事業者、行政機関をもって構成する」の行政機関として生駒市が入っているが、正会員の会費を生駒市は払っていない。市職員が個人で入っているだけという考え方にしなくなかったので、補助金で出す形にしている。推進会議の委員はボランティアだが市職員は仕事だから、同じ仕事をしてはならない。職員は専門性を活かし能力を出して努力することが意識としてある。(生駒市)

Q13. 太陽光の補助金やコミュニティバスの取り組み、「いこま紙(トイレットペーパー)」やバイオディーゼルの先進的な活動は、ECO-net 生駒が設立されてから始めた取り組みなのか、既存の取り組みがあって活動になったのか？ 他の課と一緒に進めるプロジェクトを考えているが、環境に関心のない職員の意識改革はどうすればいいのか？

A13. 環境の仕事は別の仕事という意識が他課の職員にはあると思う。それでも「関係ない環境ばかりやらされて腹立つ」から「またか、しゃーないな」に変わってきた。向こうにもメリットを感じてもらえるようにし、職員個人の意識改革をはかるのが 1 番大事だ。太陽光発電やコミュニティバスの事業は 10 年ほどやってきた。コミュニティバス路線は現在、実証運行をしているところだ。いこま紙の事業は ECO-net 生駒として自主財源を確保する一つの取り組みとしてやっている。推進組織のメンバーである収集業者さんの協力を得て取り組んでいる。(生駒市)

環境基本計画をつくるときは、他の課の職員もメンバーとしていたが、推進組織には残っていないのが残念だ。(ECO-net 生駒委員)

市職員の援護射撃をすることや、他で付き合いのできた市職員への働きかけ、異動した職員とつながり続けることなども大事。(ECO-net 生駒委員)

Q14. 推進組織の活動場所の確保についてはどうなっているのか？

A14. 事務局や会議室など場所の確保（ハード面）に加え、定期的に毎月環境情報をアピールできる広報のページ（ソフト面）も確保した。

Q15. 収支決算の事業収入で23年度の事業参加負担金とは何か？ また、今後事業として展開していきたい、収入として力を入れていきたいものがあれば教えていただきたい。

A15. 事業参加負担金とは、平成22年度と同じく、エコドライブ講習会などの参加費を予算化したもの。トイレットペーパーの事業は今年から始めたので、当初の予算には反映されていなかったため、特別会計にしていこう。独自の財源確保に力をいれていきたい。例えば、市のごみ半減目標に賛同する企業の名前を、ごみ収集車（パッカー車）の広告幕に掲示し、掲載料を推進会議の収益にしたり、事業によっては企業から協賛金をもらったりと、これまでの行政の発想とは違い、いろんなアイデアを出しながら進めている。（生駒市）



16:40 生駒市役所2階、環境政策課内にある、ECO-net 生駒の事務局見学



17:00 生駒市を出発し、バスの中で視察のふりかえりをおこなった。

（出された意見は以下のとおり）

1. すごい！おもしろい！まねしたい！と思ったこと
- ・ 多数決で決めずに、「全員一致」の原則で会議をしていることはすごい。
  - ・ 市役所の中に推進組織のスペースを確保できている。
  - ・ 百数十名もの会員が参加している。

- ・レギュラーで活動している人が60人いるということは、各部会10～15人は活動している。
- ・次世代につなぐため、家族で参加できるイベント、子どもたちが楽しめる企画があるのがよい。
- ・「共通プロジェクト」という考え方はおもしろい。
- ・予算が市から400万円も付いている。
- ・広報誌でのPR。

## 2．ここは気をつけたいと思ったこと

- ・交野市内部だけではなく、外からも資金が得られるように事業を行いたい。
- ・守りより攻めの姿勢で取り組むこと。
- ・推進組織の話をおとで個人的に聞いたところ、現在は一般会員と運営委員の人とに意識の壁ができて問題になっているとのこと。
- ・会員制度で会費を取ることのメリットとデメリットを考える必要がある。

## 3．その他、思ったこと

- ・発足までに7カ月もかかるとは大変だと感じた。
- ・環境に境はないので、天野川の活動など、これを機会に交野と生駒のコラボレーションで事業ができたらいい。
- ・自分たちのプロジェクトの取り組みについてもっと話し合いたい。
- ・太陽光発電のプロジェクトが進んでいないようだ。難しいのかなと思った。
- ・我々がこれからすることをきっちり実行されていて大変心強く思った。すでに2年経過しており、定着している。このように実現を図りたい。

## (まとめ)

本日の視察・ヒアリングで、作業チームごとに必要だとわかったことをまとめ、次回、欠席した委員に報告をおこなう

17:40 交野市役所到着 終了

以上